

令和2年4月30日

赤穂市教育委員会 様

公益財団法人赤穂市文化とみどり財団

理事長 豆田 正明



令和元年度 赤穂市立民俗資料館の事業報告について

赤穂市立民俗資料館指定管理者管理運営基準に基づき、令和元年度管理委託に係る事業について別紙のとおり報告いたします。



民俗資料館(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

開館日数 308日

常 設 展				
区 分		入館料(円)	入館人員(人)	入館料収入(円)
個 人		大 人 100	2,008	200,800
		小中学生 50	31	1,550
団 体	30人以上	大 人 80 小中学生 40	522 6	41,760 240
	100人以上	大 人 60 小中学生 30		
減 免	個人 50%	大 人 50 小中学生 25	1,271	63,550
	団 体 30人以上50%	大 人 40 小中学生 20		
	団 体 100人以上50%	大 人 30 小中学生 15		
	100%	大 人 小中学生	938 3,110	
特別利用券利用者		大 人 小中学生	9	
赤穂観光パスポート		通りゃんせ	93	(@60×164) 9,840
合 計		大 人	4,841	315,950
		小中学生	3,147	1,790
		計	7,988	317,740

特別展、企画展等の事業報告

民俗資料館

企画イベント

期 日 平成31年4月7日(日)
名 称 第28回サロンコンサート「花びらに寄する思い」
内 容 小川真澄(歌唱)と尾上克彦(ギター)によるサロンコンサート
入館者数 111人

収蔵品展

期 間 平成31年4月27日(土)～令和元年5月25日(土)
名 称 五月人形展
内 容 収蔵している五月人形と鯉のぼりを飾り付け、未来の夢ある子ども
の幸せを願うとともに、初夏の香りを感じてもらおうと実施
入館者数 832人

企画イベント

期 日 令和元年6月8日(土)
名 称 いっぷく体験 お茶会
内 容 和の文化の「お茶会」で日本の文化を体験していただき、その楽
しさやおもしろさを感じてもらえるように実施
入館者数 99人

企画イベント

期 日 令和元年6月29日(土)
名 称 第8回ハーモニカコンサート
内 容 ハーモニカ愛好者の会「AKOハニーハーモニー」によるハー
モニカコンサート
入館者数 113人

企画展

期 間 令和元年7月4日(木)～7月30日(火)
名 称 みんなで体験!キャンドル作りと作品展
内 容 歴史ある当館でキャンドル作りや作品展を実施
入館者数 501人

企画展

期 間 令和元年8月4日(日)～9月13日(金)
名 称 大人も子どもも楽しめるクラフト体験とトールペイント作品展
内 容 普段使われている身近なトールペイントの作品を数多く展示した
り、手作りの楽しさや自分で作った作品への愛着を感じてもらう

ため6種類の体験教室を実施

入館者数 911人

企画展

期 間 令和元年10月1日(火)～10月11日(金)
名 称 ほっこり楽しいお人形と帯・着物リメイク展
内 容 人形に対して興味や関心をもっていただければという願いやリメイク展では知恵を出し合い工夫して古いものをリメイクしていく楽しさを感じ取ってもらいたいという思いをもって実施

入館者数 1,201人

企画イベント

期 間 令和元年10月12日(土)・10月13日(日)
名 称 オータムコンサート 2019
内 容 「はたけの家」によるバンドコンサートと、「リコーダーの会・あんだんて」によるリコーダーコンサートを2日間にわたって実施

入館者数 102人

企画展

期 間 令和元年11月4日(月・休)～12月15日(日)
名 称 「令和だヨ!全員集合」The 47BlackCatsと仲間たち展
内 容 市内在住のマサミ マエカワ氏の協力により討ち入り、剣舞隊やオーケストラバージョンなど約250体の黒猫人形を展示

入館者数 950人

企画イベント

期 間 令和元年12月21日(土)・12月22日(日)
名 称 クリスマスコンサート 2019
内 容 クリスマスウィークに合わせて「はたけの家」によるバンドコンサートと、ハーモニカ愛好者の会「AKOハニーハーモニー」によるコンサートを実施

入館者数 117人

収蔵品展

期 間 令和2年1月6日(月)～1月24日(金)
名 称 お正月の民具展
内 容 寄贈していただいている収蔵品の中から破魔弓や羽子板などお正月に関わりの深い民具と子どものお正月の遊び道具を展示

入館者数 641人

収蔵品展

期 間 令和2年2月8日(土)～3月19日(木)

名 称 お雛さま展

内 容 江戸時代のお雛さまや昭和初期の御殿雛、七段飾り雛や木目込雛を展示

入館者数 981人

赤穂市立民俗資料館の管理運営に関する業務の収支決算書
(令和元年度分)

(単位:円)

収入

項目	予 算	決 算	差 引	内 訳
赤穂市委託料	9,680,000	9,211,053	468,947	民俗資料館管理収入
施設利用料収入	290,000	317,740	△ 27,740	施設利用料収入
合 計	9,970,000	9,528,793	441,207	

支出

項目	予 算	決 算	差 引	内 訳
人件費				
給料手当支出	3,388,000	3,387,064	936	職員給1人
臨時雇賃金支出	3,344,000	3,189,545	154,455	パート職員賃金4人
福利厚生費支出	622,000	573,857	48,143	社会保険料外
小 計	7,354,000	7,150,466	203,534	
物件費				
消耗品費支出	277,000	276,645	355	企画展消耗品外
燃料費支出	16,000	12,736	3,264	ガソリン代外
会議費支出	74,000	60,864	13,136	企画展出演者賄外
印刷製本費支出	135,000	135,000	0	入館券印刷外
光熱水費支出	950,000	771,026	178,974	電気代外
修繕費支出	18,000	17,600	400	展示ケース照明球取替修理
通信運搬費支出	56,000	46,664	9,336	電話料外
保険料支出	46,000	45,570	430	自動車損害保険料外
委託料支出	428,000	427,895	105	警備委託外
使用料賃借料支出	505,000	492,977	12,023	自動車賃借料外
原材料費支出	10,000	0	10,000	
消耗什器備品費支出	40,000	31,350	8,650	施設備品
諸謝金支出	50,000	50,000	0	出演謝礼外
負担金支出	10,000	10,000	0	県博物館協会負担金
雑費支出	1,000	0	1,000	
小 計	2,616,000	2,378,327	237,673	
合 計	9,970,000	9,528,793	441,207	

令和元年度 指定管理者管理運営事業評価シート

1 評価対象施設

公の施設の名称		赤穂市立民俗資料館				
所在地		赤穂市加里屋805-2				
指定管理者	団体名	(公財)赤穂市文化とみどり財団		指定期間	開始日	平成30年4月1日
	所在地	赤穂市中広864番地			終了日	令和3年3月31日
選定方法		公募・ <u>非公募</u>		評価実施年	指定期間3年のうち2年目	
施設設置目的		・郷土の民俗に関する資料の収集、保管、調査研究及び展示等を行い、市民の教養の向上、文化の発展に資するため、当館を設置する。				
主な実施事業		<small>(1) 実物、複製、模写、模型、図書、フィルム等の資料(以下「資料館資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。 (2) 資料館資料に関する調査研究を行うこと。 (3) 資料館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。 (4) 他の資料館、学校その他の関係機関と連絡し、及び協力すること。 (5) 前各号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める事業</small>				

2 利用状況(目標と実績)

成果指標		単位	目標	H30	目標	R1	目標	R2
a	利用者数	人	6,000	7,990	6,000	7,988	6,000	
b	稼働率	%	100	133%	100	133%	100	
c	受講者数							
d	参加者数							
e								

3 指定管理業務にかかる収支状況

区分		平成30年度決算	令和元年度決算	令和2年度予算	
収入計		A	9,603,013	9,528,793 /	10,500,000 /
	指定管理料		9,270,883	9,211,053	10,210,000
	利用料収入	C	332,130	317,740	290,000
	自主事業収入				
	その他				
支出計		B	9,603,013	9,528,793 /	10,500,000 /
	事業費		9,603,013	9,528,793	10,500,000
	内、人件費	D	7,045,060	7,150,466	8,007,000
	内、再委託料	E	426,436	427,895	433,000
	自主事業費				
事業収入		A-B	0	0	0
利用料比率		C/A	3 %	3 %	3 %
人件費率		D/B	73 %	74 %	76 %
再委託費比率		E/B	4 %	4 %	4 %

・支出欄「D・E」は代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
 ・事業費は、該当年度及び過年度決算を記入する。また、右欄には、次年度予算を記載する。

補足説明	
------	--

4 事業評価

評価区分	評価項目	自己評価	所管評価	
① サービスの履行	人員体制	事業計画に則し、人員を過不足なく配置している。	B	B
		事業計画に則し、計画的に研修等を実施している。	B	B
	法令順守	法令・条例等に基づき、必要な点検・報告を行っている。	B	B
	外部委託	外部委託に際し、適切に業者を選定し、業務指導を行っている。	B	B
	個人情報保護	個人情報保護に関する条例を順守し事故防止対策を講じている。	B	B
	情報公開	情報公開に関する法令や条例に準拠した運用がなされている。	B	B
		協定書等に従い、情報を適切に管理し、公表している。	B	B
	管理記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	B	B
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	B	B
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	B	B
		市との連絡調整を適切に行い、情報の共有が図れている。	A	A
	緊急対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	B	B
緊急時のマニュアルが整備され、定期的に訓練を行っている。		B	B	
緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行った。		B	B	
財務状況	指定管理者の財務状況は、業務の継続が可能な状態である。	B	B	
総括	【業務の実施体制】に関する評価】	B	B	
② サービスの質	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		事故防止及び安全確保のために必要な対策を講じている。	B	B
	利用者対応	利用許可、利用料金の徴収、減免等の受付業務を適切に行っている。	B	B
		利用者に対して設備、備品等を適切に提供している。	B	B
	事業運営	言葉使い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
		事業計画に則し、必須事業を実施している。	B	B
		施設の目的に沿った自主事業を実施している。	B	A
	維持管理	事業内容がサービス水準の向上に寄与している。	B	A
		管理運営基準等に従い、施設の維持管理を適切に行っている。	B	A
		備品台帳に基づき、備品を適切に管理している。	B	B
	環境配慮	協定書等に従い、適切に修繕を行っている。	B	B
		省エネルギー、省資源等環境への配慮がなされている。	B	B
	広報活動	事業の開催案内、ホームページの管理等を適切に行っている。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	B	B
		要望、苦情等を整理し、遅延なく市に報告している。	B	B
事業評価	利用者アンケート調査を実施し、その結果を利用者等に公表している。	B	B	
提案事項	各種提案事項について、市と協議し、検討を行っている。	B	B	
利用状況	利用者数等は、目標に対し妥当な水準である。	B	A	
総括	【業務の内容・水準】に関する評価】	B	B	
③ 安定性	経理事務	適切に経理事務を行っている。	B	B
	予算執行	収支予算書の範囲内で適正に予算を執行している。	B	B
	経費縮減	経費が縮減され、又は縮減に向けた努力を行っている。	B	B
	収支状況	収支予算書と比較して、収支状況は妥当である。	B	B
	総括	「経費の収支等」に関する評価【標準4項目/本施設4項目】	B	B

所見 (成果、課題等)	【自己評価】		
	<p>令和元年度は、コンサートを1日増やして新しい演奏グループを1組迎えた。リコーダーの演奏をしていただいたが、今ではなかなか大人が聞ける機会が少なくなった楽器なので予想していたよりも多くの来館者があった。また、一日だけの実施であったが、「お茶会」には100人以上の来館者があり日本の良き文化を楽しんでいただいた。更に、「ほっこり楽しいお人形と、帯・着物リメイク展」ではユニークな衣装を着飾った「お雛様・5月人形・ねこ・うさぎ」等の人形が好評で約10日間の実施であったが市内外から多くの方が来館された。「ブラックキャッツ展」では、義士ウィークの期間中も実施したため、その期間中は多くの方に見ていただいた。このように、令和元年度に初めて実施した事業には多くの来館者の方楽しんでいただいた。ただ、3月は新型コロナウイルスの影響により、来館者が大幅に減少したのは残念であった。令和2年度も、何か一つでもこれまでになかった事業を計画・実施できるように考えていきたい。</p>		
	<p>県指定の重要文化財である館について、適切な維持管理に努めている。 柔軟な発想により年間を通じて多様な企画・イベント等を行うことにより、多くの来館者の増加につなげている。 利用者の安全確保に努めながら状況に応じて、引き続きさらに来館者の増加につながる新たな事業展開に努められたい。</p>		
前年評価	B	総合評価	B

※評価基準

A	優良	基協定書、仕様書、事業計画書等を遵守し、要求水準より優れている。
B	良好	協定書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
C	要改善	協定書等に定める要求水準を下まわっており、改善が必要と認められる。